

2014年4月2日  
生活協同組合連合会コープネット事業連合

組合員・役職員が産地を訪問し、生産者と交流  
とうにちょう  
4月10日、11日、唐丹町漁業協同組合(岩手県釜石市)の  
「産地視察・交流<<産地の想いをつなぐ>>」を実施

コープネット事業連合(本部:埼玉県さいたま市、理事長:赤松 光、会員生協:関東信越の6生協)は、4月10日(木)11日(金)の2日間、コープネットグループの組合員と役職員による「産地視察・交流 産地の想いをつなぐ」を、岩手県の唐丹町漁業協同組合(岩手県釜石市)で実施します。

産地視察・交流は、“食料の生い立ちを知ること”“産地・生産者の想いを受けとること”そして、消費者・販売者の立場から意見・要望を伝え、フードチェーン(生産から消費まで)全体で「生産」「消費」について知識と理解を広げることを目的に、全国の主要な産地を対象に2009年から実施しています。

今回の「産地視察・交流」では、組合員と役職員が「CO・OP 岩手県産 生わかめ」の産地である唐丹町漁業協同組合を訪問し、東日本大震災で甚大な被害を受け2014年から再び稼働を開始したわかめ加工場の視察や、鮭の稚魚の放流、生産者との交流会を予定しています。



わかめを刈り取る収穫体験(昨年度)

コープネットグループでは、今後とも震災により甚大な影響を受けた漁協および取引先の水産加工メーカー等を組合員や職員が視察・交流し、産地の特徴や生産者について理解を深め、復興に向けた取り組みを支援し続けていきます。

「産地視察・交流 産地の想いをつなぐ」および視察先の概要につきましては、次頁をご参照ください。

《生活協同組合連合会コープネット事業連合 概要》

- 【住 所】 埼玉県さいたま市南区根岸 1-4-13
- 【理 事 長】 赤松 光(あかまつ ひかる)
- 【会員生協】 コープみらい、いばらきコープ、とちぎコープ、コープぐんま、コープながの、コープにいがた
- 【総事業高】 4,930億円(会員生協事業高計) 2012年度
- 【組合員数】 402万人(会員生協組合員計) 2014年3月20日現在
- 【ホームページ】 <http://www.coopnet.jp/>

— 岩手県 <sup>とうにちよう</sup>唐丹町漁業協同組合「産地視察・交流<<産地の想いをつなぐ>>」概要 —

●日程および視察・交流内容

日付	時間	内容
4月10日(木)	14:30~16:30	わかめ圃場の視察(定置船) 鮭の稚魚の放流
	17:00~19:00	生産者との交流会
4月11日(金)	5:00~7:00	わかめ漁早朝見学
	9:00~11:00	学習会、水揚げ視察、わかめ加工場視察・作業体験
	12:00~13:00	大槌町視察

●参加者

コープネット事業連合 赤松理事長、組合員(理事他) 店舗職員、コープデリ宅配職員 など11名

●唐丹町・唐丹町漁業協同組合概要

唐丹町漁業協同組合のある岩手県釜石市唐丹町は、三方を山に囲まれ釜石市の最南に位置します。唐丹町漁業協同組合は昭和24年に設立され、わかめ、こんぶ、ほたて貝の養殖業を主体としています。設立当時より片岸川、熊野川にて、サケ人工孵化事業を行い周辺の漁業振興にも大いに貢献しています。

唐丹町漁業協同組合は東日本大震災の津波により、漁港の防潮堤の一部崩壊、漁港内の施設や設備は被災し、海上の養殖施設や定置網漁業具なども全て流出しました。また、事務所の流出は免れたものの、漁船の9割以上を失うなど壊滅的な被害を受けました。震災以降、わずかに残った船などを共同利用しながら事業を再開し、徐々にではありますが復旧が進んでいます。

主要産地視察・交流の目的

- (1) 組合員・生産者とともに「生産」「消費」について知識と理解をひろげ、生産者・加工者・コープ・組合員が一体となって、「産直」の取り組みを推進します。
- (2) フードチェーン(生産から消費まで)をより確固たるものにするために、組合員の産地視察、生産者との交流など、信頼の輪を広げる取り組みを進めます。
- (3) 理事長を団長とし会員生協組合員理事、会員生協職員を中心とした全国主要産地視察・交流に取り組みます。
- (4) 参加者は、視察・交流を通して産地の特徴や生活者の苦労などについて理解を深め、そのことをより多くの組合員・職員にひろげます。あわせて「ハピ・デリ!」紙面、組合員広報誌等で産地視察・交流内容を紹介します。
- (5) 産地視察・交流を含め、多面的かつ総合的な取り組みを通して、全国の主要産地との「より強固なパートナーシップ」の確立を目指します。